

しのめ

発行 ● 鳥取県立鳥取東高等学校同窓会 東雲会

鳥取県鳥取市立川町5-210 〒680-0061

TEL 0857-22-8495

FAX 0857-22-8497

Eメール torie-h@mailk.torikyo.ed.jp

出版 ● 株式会社 サラト

兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948

TEL 079-284-1380

FAX 079-224-7746

題字 柴山抱海氏（特別会員）

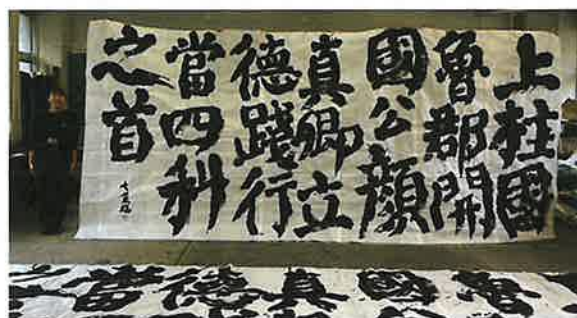
2022年6月23日 創立100周年記念日

お知らせ

本来、鳥東高の創立記念日は6月23日ですが、生徒と共に創立記念日を祝い、一緒に盛り上げようということで、**来年の「東高祭（8月下旬～9月初旬）」の時期**に「創立100周年記念式典」が執り行われることになっています。「コロナ禍」で厳しい状況が続いていますが、「苦しい時こそ団結するのが鳥東高同窓会！」という精神で応援したいと考えています。同窓生の皆さま方の、一層のご支援をお願いいたします。



第14回全国高校生大作書道展
団体奨励賞 書道部（令和2年度）



第14回全国高校生大作書道展
大作優秀賞 見生七菜



感謝

すべての縁に感謝

同窓会長 石丸文男（山24）

昨年8月の東雲会総会で、常田享詳様（山13）に代わって会長を引き継ぐことになりました山陰合同銀行の石丸でございませう。常田様を始め、これまで東雲会を支えてこられた方々に対し、心から感謝を申し上げます。

私は今まで東雲会の活動にあまり関わったことがなく、

私で良いのかと随分悩みましたが、常田前会長の熱心なお誘いに何かの「縁」を感じました。丁度その頃、日本経済新聞の『交遊抄』というコラムに鳥取東高時代の友人の話を書き、母校に対する思いが強くなっていた時でした。

覚悟を決めて引き受けさせていただくことにしました。今まで母校に恩返し出来ていない分、精一杯頑張りたいと思います。

執筆にとりかかった現在、コロナウイルスによる感染拡大が続く、緊急事態宣言が延長されコロナとの戦いが続いています。本号が発行される頃にはどうなっているでしょうか。ワクチン接種はどれ位進んでいるでしょうか。オリンピック、パラリンピックの

開催はどうなったのでしょうか。コロナにより我々の仕事や日常生活が大きく変わりました。感染が落ち着いたらとしても、コロナ前の姿には戻らないことも多いと思います。東雲会会員の皆様の中にも大変厳しい状況の方もいらっしゃるのではないかと思います。

こういう時こそ、いたずらに不安を煽ることなく、コロナを正しく理解し、正しく対応していきたいと思っています。誹謗中傷などすることなく、『お互い様』の気持ちで助け合っていきたいと思っています。

ワクチン接種が進めば、徐々に日常が戻ります。コロナ前とは違う『新常态』がどういうものになるのかはわかりませんが、我々人間は過去を教訓として新しい時代を創ることが出来ます。

来々年2022年6月23日には、明るく希望に満ちた鳥取東高等学校創立100周年を迎えられることを強く願い、『しのめ』最初の会長挨拶とさせていただきます。

「頼もしい若者たち」

校長
中島 靖雄

かつて受験界に「四当五落」という言葉があった。同窓生の皆さんの記憶にも残っているものと思われる。四時間睡眠の受験生は志望校に合格し、五時間では合格はおぼつかないという意味の造語である。我々も、その真っ只中で高校生活を送ったように思う。

昔の部活は猛暑の中でも水を飲んではいけなかった。しかしのどの渇きには正直なかなか勝てなかった。顔を洗うふりをして口の中をこっそりしめらせ、ほっとした記憶がある。

この「四当五落」をはじめとする様々な伝説？は、今では科学的根拠に基づいて否定されている。それどころかむしろ今は「六当五落」なる言葉が現れて、睡眠時間と可否との科学的関係は逆転しているのが現状だ。

若者言葉が話題に上がることもある。「まじ」とか「びえん」とかSNSの広がりに合わせて、その数と種類は爆発的に増えて

いる。大人から見るとこれが言葉の乱れとして槍玉にあげられる。「近頃の若い者は…」という否定的な表現で語られたりもする。

しかし私は思う。新しいことや変わることを若者は素直に受け入れ、しかもそれを器用に使いこなす。その柔軟さが、世の中を進歩させ、伝説？を覆してきたのではないかと。

平安時代の言葉は、もう現代のそれとはほとんど異なっている。それはもはや「古語」世界だ。この言葉の変遷をリードしてきたのもおそらく若者たちなのだろ。

清少納言は枕草子にこう書いた。春は曙、夏は夜、秋は夕暮れ、冬はつとめてが「いとをかし」。しかし現代の若者言葉ではこうなる。春は曙、夏は夜、秋は夕暮れ、冬は早朝が「まじヤバイ」。

かくして、東高生も日々若くて柔軟な頭で思考している。コロナ禍で日本中の学校が行事を中止する中で、皆さんの後輩たちは新しい生活様式を受け入れ、工夫し、その中で学校祭も修学旅行も高原教育も全部実施し、やり切った。その適応力には舌を巻く。大人が思っているよりずっとずっと頼もしいのが東高生である。

我ら同期生

「故郷弥生町の迎賓館」

松本 泰尚(山12)

令和2年1月恩師倉恒先生がお亡くなりになりました。平成26年発行の(発行卓球部OB会会長 山根宏 山脈17回)【鳥取東高卓球部創部65周年記念誌】に熱戦の記録とOBから寄稿された(白球への追想)が収録されています。昭和31年から卓球部顧問倉恒先生の写真がたくさん掲載されていて貴重な思い出となっています。改めて合点。

令和2年正月の山脈12回の首都圏新年の集まりは14名が参加し東京皇居前のホテルで開催。1年ぶりの再会を楽しみました。その後コロナ禍の影響を受けて本部の懇親会・各支部の総会が中止となります。そんな9月、50年余り続いた鳥取弥生町のスナックから店仕舞いすると同期の美人ママから突然の便りが届きます。同期の周年行事の2次会には皆で寄り20人は無理な店で肩組みあって【高校3年生】を汗びっしょりで唄ったも

のです。そんな思い出の多い店が姿を消す。コロナは酷いことをするものです。ツーリング途中の友人が小椋佳の「シクラメンのかほり」を爽やかに唄いママに褒められ、1泊2日のゴルフの友人達も酒と歌と会話を楽しみ、東京からの鳥取旅行グループも楽しい思い出になったと喜んでくれました。マスターとママの豊富な情報や話題の多さに助けられ夜の更けるまで少年少女時代、現役時代の苦労話自慢話に花が咲き、内服薬の多さも自慢話になったものです。【鳥取砂丘】【長崎の鐘】を上手に唄う客もいたような。大丸デパート屋上のビヤガーデンからの帰り友人と店によった時、友人は近くNHKのど自慢に出るんだと十八番らしい前川清を唄います。辛口のママさん、鐘3つは難しいなあ。数日後の日曜日、あの人合格したよ。ママさんからびっくり速報。10月閉店の便りを聞いたかつての馴染み客が順番待ちのように詰めかけ店は花で埋まっていました。(心配ご無用、しっかり三密は守られていた)僕にとって【スナック漸】は鳥取の迎賓館でした。10年ぶりの大雪で令和3年正月を迎えた鳥取。コロナ禍は身近な恐怖となつて続いています。2022年東高100周年の時はどこに行こうかと考えています。

鳥取東高100年の歴史を残す ～校史資料提供のお願い～

本校は2022年、学校創立100周年を迎えます。その記念事業の一環として、校史編纂を計画しております。

皆様の鳥取二中・東高時代の学校生活及び部活動等に関する資料、写真や情報をお持ちの方、ご提供いただけるものがありましたら、記念事業実行委員会までご連絡ください。大変ありがたく思います。

〒680-0061

鳥取県鳥取市立川5丁目210 鳥取県立鳥取東高等学校内
鳥取東高創立百周年記念事業実行委員会 記念誌部会

Tel: 0857-22-8495 Fax: 0857-22-8497

E-mail: torie-h@mailk.torikyo.ed.jp



とあるお仕事のお話

谷口 伸 (山38)

プロフィール

慶応義塾大学文学部卒。日本音楽コンクール入選を始めとする国内主要コンクール、海外では、国際シューマンコンクール第3位、デビュー・イン・メラン国際声楽コンクール総合優勝等、数々の受賞歴を持つ。

1998年よりウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ学科に学び、2002年同科を最優秀で卒業。2005年よりゲルリッツ市立劇場、2010年よりツヴィッカウ市立劇場、2018年からはマイニンゲン国立劇場（いずれもドイツ）と専属契約を結び、出演した全ての役において高い評価を得る。

2020年末、パブロ・エラス=カサド指揮NHK交響楽団、ベートーヴェン交響曲第九番演奏会にて、同団と初共演を果たす。



「年末、帰国できませんか」
そう言うって彼が私に電話をかけて来たのは、コロナの閉塞を音楽でぶち破るべく、鳥取の音楽仲間と企画したコンサートの成功の余韻に浸っていた、8月初旬のことだった。

彼の職業は、かのNHK交響楽団演奏制作部部長。小・中高と私の二級下で一緒、生まれ育った町内も一緒、ガキの頃から神童と目され、周囲の期待と予想通りに東大現役合格、卒業後NHKに入局し、クラシック音楽畑をひたすら歩んできたキレ者である。

私の職業は、バリトン歌手。一浪して受かった大学で男声合唱にハマり、学業そっちのけで歌ってたら卒業に5年かかり、一旦普通に就職するも夢諦めきれず声楽家を志して渡欧、数年の素浪人生活を経て16年前にやっと、糊口をしのげるほどの職をドイツの片田舎の劇場でゲット、現在まで計3つの劇場を転々としながら歌ってきた変わり者である。

「えーと、モノはなに？」「第九です」「え、年末恒例の？」「そうです」

おottoと：そいつはすげえ。クラシックをよくご存じない方もご存知のあれか。二つ返事と行きたいが、ドイツに帰国して所属する劇場にお伺いを立てな

いことには何とも。ひとまずその旨を伝え、劇場との談判の結果を待ってもらうことに。

劇場のシーズンは9月スタート。通常なら半年以上も前に年間スケジュールは確定している。ところがコロナのヤロウのおかげで、11・12月の予定が未だ真つ白。加えて、第九に出演するためには、稽古・本番に参加する手前2週間の隔離期間も込みで帰国する必要がある、合計約3週間の休みを劇場がくれるか否かがカギだったが、運よく12月の香盤表に私の名前を書き入れなくて済むこととなり、すかさず出演可能の連絡。日本のクラシック界ではほぼ無名に近い馬の骨が、天下のN響との初共演に臨むことと相成った。

12月初旬帰国、実家にて隔離生活、母親の料理で体重微増の後、一路東京へ。初日の稽古は品川・泉岳寺にあるN響本部ビル。入って行くと件の彼が迎えてくれた。

「ようこそ、いらっしやい」

実は10年前、大阪交響楽団との初共演時の模様がNHK-FMで放送されたが、その時のチーフディレクターが彼だった。約10年ぶりの再会。懐かしさと共に、今回の招聘に尽力してくれた彼の顔を打つちやあなんと、気合が入りなおす。

気鋭のスペイン人指揮者、パ

ブロ・エラス=カサドと、共演する他の3人のソリストと共に、ピアノリハーサル。小気味よく一見淡泊に思える音楽は、重厚長大な第九を聴いてきた耳には新鮮で斬新。しかし実は、ベートーヴェンが作曲し、当時響者の彼の頭の中で鳴っていたのはこういう音楽ではなかったと思わせる、楽譜に忠実かつ彩り豊かなもの。このシエフと、原点回帰を目指す、つて感しか。

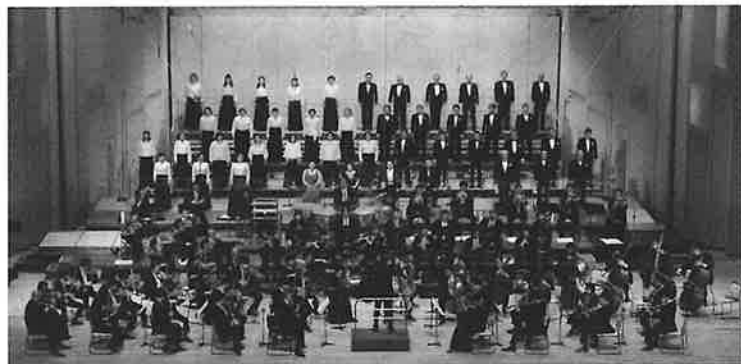
翌日はホールでオケ・合唱と共に通し稽古。JR原宿駅から徒歩で向かった先に見えてきたのは、NHKホール。学生時代から都合10年東京に住んでいたのに、終ぞ入ったことのなかったこの国内最大、3,800人収容可能な音楽ホールに、初めて足を踏み入れる。

……うーむ、デカイ。2,000人規模のホールなら何度か歌ったことがあるけど、これは想定外のデカさだ。まあしかし、ホールがデカイからといって身体を倍になんかできりやあせん。いつも通り歌えばちゃんと響いてくれるはず……と信じよう(笑)。

オーケストラでカサドの解釈を聴くと、彼の意志がよりはつきりとした輪郭を見せる。この音楽の一部になれる喜びを、緊張の中でもしっかりと感じつつ、リハーサル終了。

さて、本番当日。昼過ぎに最終リハを終え、開演までの空き時間で明治神宮へ。ここまで来たら最後は神頼み。お賽銭はいくらがいいんだっけか。

19時、開演。全4楽章の内2楽章が終わったところで登壇、着席。目の前で繰り広げられる第3楽章、演奏するはN響。かつてテレビ画面を通して何回も見ていたあの舞台に今、自分が立っている。遂に始まる第4楽章、迫る、第一声の時、早鐘の如く打つ心臓。落ち着け、自分を信じて、今までやってきたことは、伊達じゃない。さあ、歌え。



東京支部 東京東雲会近年の記録 (近況報告にかえて)

幹事長 奥田真三 (山23)

昨年は、1月下旬頃から、新型コロナウィルスの感染が急速に拡大し4月中旬には、総会開催の是非が問われる事態となり、緊急で幹部役員間で協議を重ね、5月18日に、書面決議とすべく、役員幹事45名に総会開催の賛否を伺うメールと電話連絡を実施。結果全員から「開催中止はやむを得ない」という返事を受け取り、5月21日(木)「本年7月4日開催予定の東京東雲会総会は中止し、現況下の感染収束が見られた時点で何らかの会合を開催する。」と決定致しました。そして5月31日(日)には、会員全員へ「開催中止の連絡を、会報『東京東雲』とともに郵送致しました。その後、東雲会メールや葉書などで、総会の開催中止を残念がる声が多く寄せられ、会員の皆さんの故郷を思う気持ち、母校に対する想いの強さに、そして東雲会に対する熱い思いに、心動かされた次第でした。東京東雲会の60年の歴史の中で、初めての中止という事態となり、毎年会報に掲載していた『総会の様子』を掲載することができません。そこで、近年の総会開催状況を以下に記して近況報告にかえさせて頂きます。

・平成21年7月4日
総会
『東雲会のタベ』



・平成24年7月7日 総会
母校創立90周年特別企画
石破茂衆議院議員(当時農林大臣)講演。
中島睦夫さん(山脈5回)プロデュースによる演奏「祝賀剣舞」があり90周年に花を添えた。なお、石破茂先生の講演については、八村義郎さん(当時副会長・山脈4回)にご尽力頂きました。
・平成25年7月6日 総会
ふるさと再認識「童謡を歌おう」企画
鳥取は、岡野貞一さんをはじめ、多くの童謡の関係者の故郷であり、童謡の宝庫ということで、東京藝大出身の童謡歌手 平岩佐和子さんに出演頂き、皆で楽しく岡野先生が作曲された「春の小川」「朧月夜」等。そして夏の最後に「ふるさと」を歌いました。
・平成26年7月4日 総会
この年まで、7月第1土曜日夕方の時間帯に総会開催。総会を『東雲会のタベ』という名称で開催しました。
・平成27年7月4日 総会
この年から開催時間をお昼の時間帯に変更。東京東雲会創設60周年記念開催とし、創設功労の浜本清海先生(柏葉7回)を偲ぶ会としました。
・平成28年7月2日 総会
常田照雄さん(山脈18回)講演、若手漫才家・マジシャンの余興が好評でした。
・平成29年7月1日 総会
鳥取市長 深澤義彦さん(山脈22回)講演、ピアノニスト 御船里帆さん(山脈53回)出演。
林田英樹さん(山脈12回)を新会長に選出、新体制(現体制)へ移



行した。
20年の長きにわたる会長を務められた鈴木誠さん(山脈5回)は名誉会長に就任され、ともに東京東雲会を支えてこられた岸本郁男さんと、中島睦夫さん(共に山脈5回)は相談役に就任された。
・平成30年3月1日
東雲会メール、ホームページが立ち上がりました。
5月1日
会員待望の会報『東京東雲』創刊。
7月7日 総会
ピアノ奏者 棚橋恭子さん(山脈55回)とチェロ奏者 中島恵さん(山脈56回)のミニコンサート。素晴らしい弦楽演奏・音色に酔いしれました。
・令和元年7月6日 総会
CMディレクター 浜崎慎治さん(山脈46回)の講演。ピアノニスト 渡邊絵理子さん(山脈59回)の演奏。心に残るアツトホームな東雲会らしい総会でした。
・令和2年4月1日 事務局移転
(長年お世話になりました鈴木名誉会長の事務所から現在の事務局へ移転)
7月4日 総会開催中止
(東京東雲会60年の歴史の中で初めての中止)
・令和3年 近況報告
コロナ感染は第2波・第3波と続き、現在を迎えていることは高承の通りであります。令和3年総会の開催については、コロナ禍、第4波の感染爆発が心配され、またオリンピック・パラリンピックの開催時期とも重なりますので、7月3日(土)開催を10月16日(土)に延期する予定です。(正式に決まりましたらご案内致します)
100周年の前年ということでもありますので、何としても開催し旧交を温め、皆で盛り上がりたいたいと考えております。また新様式・新形式での開催を模索中です。

京阪神東雲会

「廻る世紀の歯車」
によせて
会長 岡田俊一(山12)

立川の地で産声を上げた母校の同窓会「東雲」は、関西の地でも芽吹き72年目を迎えます。
当会同窓紙からその年輪を振り返ります。

京阪神東雲会の誕生について、京阪神東雲会同窓紙で上田二郎(柏11)氏は次のように述べられています。

松浦昇(柏1・平成7年6月逝去)先輩が生前次のように話してくれました。昭和26年9月京阪神在住の同窓生有志、谷沢進(柏1)、井戸垣弘光(柏1)、近藤喜久治(柏2)、谷千秋(柏3・逝去)、広岡秀治(柏3・病氣療養中)、吉田登(柏3・逝去)等の皆様と相談され同窓会の開設について了承され初めて京阪神東雲会が生まれました。以来会の運営その他一切は松浦先輩と奥様のご協力、ご協力により年と共に会員の輪が広がりました。昭和35年当時松浦先輩から京阪神在住者名簿の作成と会員増加について依頼があり宇野田久子(山8)さんと苦労して毎年の総会には本部の同窓会会長、学校長また担任の先生等を引きどうにか50・60名程度の参加者を見るようになりました。
(創刊号1998年10月)

次の貴重な記事があります。

平成10年度の京阪神東雲会総会は11月21日に盛会のうちに終わりました。会場では「会報を見たの」ということで、文章を寄せていただいたり、また創設時の写真も送られてきたりました。会長の挨拶にあるように、本部から、多くの



私は90歳までは生きますので、なんとかそれまでに甲子園で東高の校歌を歌いたい!とお話でした。同席の森本先生は今年母校に帰られ、2度目の野球部の部長とのこと、プレッシャーがかかった様子。今世紀はもう無理にしても、なんとか東高校になつてからの初出場と初勝利を期待したいもの。当番幹事の山脈15回の鳥取の応援組も15名加わり、久々に純粋の鳥取弁に矯正された楽しい懇親会でした。
(2号1999年10月)

校歌の一節に「廻る世紀の歯車と采ゆくなり東高」とありますが、文字通り2世紀目に入りますね。故郷を離れ子育てや仕事をリタイアした時間に思い出されるのは、多感な時代を共有した友垣とかつて過ごした学び舎の空間です。
廻る歯車のゴトンという音は母校の鼓動であり、私たちの故郷帰りの心を揺さぶる振動です。

みずみずしい言葉たち



2020年度 河野裕子短歌賞受賞者

・干からびたカエルをよけてす
みゆくばいばい、わたしは夏を
のりきる
／石名萌

この歌は第七回「河野裕子短歌賞」で最優秀第一位の河野裕子賞を受賞した石名萌さん（二〇一八年当時一年生）の作品です。中高生が応募する青春の歌部門には全
国から一万三、二五六首の応募がありました。石名さんの作品は、「干

からびたカエル」によって暑い夏の道路の映像と、「ばいばい」という口語の伸びやかな印象と「夏をのりきる」というやわらかな意思が絶妙に感じられる作品として評価されました。また他に、石田あゆみさん・平尾大貴くん・松本美幸さんが入選しました。本校は僅か八〇名しか応募しなかったのですが、入賞・入選率が高いことが

ら学校賞もいただくことになりました。

ちようどその受賞式のころ、鳥取県知事の肝煎で「令和記念万葉の郷」とりけん全国高校生短歌大会」が開催されました。この大会は、全国から短歌の強豪校ばかりが参加し、三人一組で競われる対戦型の短歌バトル方式で行われました。予選を通過した本校チームの山根陸くん・平尾大貴くん・熊田遼佑くん（二〇一八年当時一年生）の三人組が、準決勝では、それぞれ「鳥」「星」「重」の題詠で岡山朝日高校に三対〇で快勝。

・週四日スロープ両手に一歩ずつ
だったら鳥に生まれたかった
／山根陸

・輝きを年月かけて送る星過去の
ひかりを僕は見ている
／平尾大貴

・この思いいいやと投げて落ち
てった重くて君に届かないのか
／熊田遼佑

決勝では茨城県立下妻第一高校と対戦しました。題詠はそれぞれ「葉」「取」「砂」。

・夕暮れて輪郭になるイチヨウの木
そばまで行くと葉が落ちていた
／山根陸

・引き出しの去年のほくを取り出
したあれからほくの何が変わった
／平尾大貴

・消しゴムじゃ消せなかった何かも
かも砂をあつめてそしてくずした
／熊田遼佑

両チームともにレベルの高い歌と評の実に白熱した対戦でした。

結果、二対一で本校チームが勝ち、初代全国チャンピオンの座に輝きました。この年は、個人でも団体でも全国優勝を果たした（高校野球でいえば大阪桐蔭くらいの強豪）ということになります。石名さん・熊田くんも、全国での優れた文化活動が評価されて鳥取県の教育長賞も受賞しました。

それから一年空いて、昨二〇二〇年度、第九回河野裕子短歌賞（応募総数一万五、六七三首）でまた快挙。選者賞（全国三位相当）・京都女子学園長賞（全国四位相当）の受賞者が誕生しました。

・うすくなる祖父の手のひらつ
かんでいるつかまれていたはず
だったのに
／下田紗希（三年）

・虫かごをぶら下げ飛び出す弟に
なんだかついて行きたくなった
／三谷梨華（三年）

全国三位の下田さんの作品は、祖父にささえられていた私がいま祖父の手を「つかんでいる」というふうに逆転してしまった関係にさびしさと愛情を感じます。日常を身体的な実感のこもった表現として完成させた点も高く評価されました。また、三谷さんの作品の「なんだかついて行きたくなった」という言葉は、もうそこには戻ることができないという今の自分への

自覚と時間の可塑性へのどうしようもなさをじんわり読者に感じさせます。同賞では他に四名が入選しました。

・一番乗りプラットホームの沈黙
につつまれながら葉の声をきく
／長谷川優衣

・帰りのバス夕日と並んで走って
るまるで私が世界の中心
／松本萌

・引退の試合終了。来ないでと言っ
たあなたの帽子がゆれる
／安岡蘭夏

これらの作品は（本校生の他の作品もそうですが）、自らの身体感覚、自然や風景のさりげない描写、繊細で発見的な認識、などがみずみずしい言葉で形づくられていて、全国屈指の歌人（選者）をうならせ、他県の指導者からも好感をもつて評価されています。

昨年度は他にも大伴家持短歌賞の入賞（田辺愛実さん三年）、第二回万葉の郷ととりけん全国高校生短歌大会の第三位（田中綾音さん・山本菜摘さん・市村恵奈さんいずれも二年生）など全国規模の短歌大会で短歌強豪校・鳥取東の生徒が、その言葉が、躍動したのでした。

本校国語科教諭・荻原伸
（塔短歌会編集委員）

対談者（東高での在職期間）

若木 剛 先生
1965.4（昭和40）～1981.3（昭和56）

濱田 英一 先生
1972.3（昭和47）～1992.3（平成4）

谷口 肇 先生
1986.4（昭和61）～2001.3（平成13）

尾室 真郷 前校長
1987.4（昭和62）～1991.3（平成3）
1998.4（平成10）～2010.3（平成22）
2016.4（平成28）～2020.3（令和2）

創立百周年記念対談 学校行事編

パート2

(平成30年8月7日・8日)

(文中敬称略)

尾室…先生方、本日はご参加いただき有難うございます。今日のこの対談は、百周年を迎えるに当たって、百年誌に記念対談として載せたいと思っております。まず最初に学校行事に関して、谷口先生に口火を切っていただけたらと思います。

1 臨海教育

谷口…学校行事も変遷があるんです。臨海学校は、僕らが高校の時に居組の方でやってたのが東浜に移ってすぐだったんです。居組でやってたのが、事故があつて向こうは駄目だということで、鳥取の方で開発しようということ、東浜の海水浴場の民宿を借り切つて開発したのが東高なんです。

尾室…嵐が浜の記念碑（注…臨海教育廃止後に建立された碑）には40何年と刻まれていたと思います。大正12年の臨海学校の写真も残っています。

谷口…あの写真は浦富です。初代の林重浩先生がこういふことをやろうということ、連れて行かれたと聞いています。

尾室…臨海学校で何かに残るものがありますか。

谷口…あの臨海学校を支えたのは、水泳部を中心とした「監視隊」が全体の安全を確保したという点にあります。東高の二泳部を中心とした水泳部の諸君が、1年から3年まで含めて、周辺の警備をしたのが大きな力になったという気がします。

尾室…我々の同窓生が思い出を語ると、泳げる者も、泳げない者も、すぐに臨海学校が出てきます。遠泳などする機会あの時しかないし、とてもいい思い出が残っています。

谷口…当時、木の名札のことを生徒は「塔婆」と言っていました。名札を全部浜に刺して、海から上がった「皆抜け！」と指示している。ところが、しばらく待っても一つ抜けんのです。海にいる証拠です。それで、びっくりしてすぐ探せということ、その辺に沈んでいないかと。他の生徒は確かに一緒に泳いで帰ったと言いますが、その辺を必死に探して探してもいない。そうしたら、しばらくして、船の影でえらくて寝とったということがあつて。あれはもう、「やつてしまったか…」と思いましたね。

尾室…一人たりとも臨海教育で命を落としてないんですね。事故がないという、すばらしい教育だったと思います。

谷口…生徒にとつてみれば、臨海教育とかファイアーストームというのは、すごく大きい。僕らの時は1年から3年まで一緒だったんです。数が少ないですからね。200名でしたからね。だから、とにかく上級生と一緒にやっていましたね。そういう時代もありました。

谷口…臨海教育において、地元の方が役を組んでくれたり応援をしてくれる、そういう繋がりや本田先生が築いておられ、また顧問という立場で水泳部を動員するという体制が、先生が退職されて組みなくなった。安全確保が出来ないということで残念

ながら中止になった。今恐らくどこも臨海教育はやっていない。

若木…昭和23年からは全校の生徒が行っていたから、谷口先生の時はもう1年から3年まで行っていた。私は昭和40年から転勤してきたんです。その時は1年生だけになったんです。私は1年の担任はしたことがないので、行ったことがないんですけど。結構変遷はありますけども、学校創設の時からずっとやってきたということは非常に重視していたと思いますね。

谷口…1年が臨海教育で2年が大山のキャンプということにしないと、人数が増えてきたということがあつて、とても出来ないということでしたね。

濱田…臨海学校は、東浜に2回ほど行った覚えがあります。中井先生が高いところで見張りしておられて、その横に私がいて、海で泳ぐのはあまり上手じゃないもんだから、海の方に



はあまり入らなかつたんです。見張りの方、監視の方だったんです。

谷口…中井先生の監視、あれだけで安全の心を徹底するみたい、そういう雰囲気でしたね。

尾室…中井先生というのは、我々の世代から言えば非常に存在感のあつた先生です。

2 高原教育

尾室…高原教育について何か思い出があつたらお願いします。

若木…全学年の年があつたり、希望者の年があつたりしましたね。大山登山と言わず、遠足と言つていた時期も。私のいる時も遠足と言つた時があります。昭和41年当時は、鏡ヶ成に遠足と言つていて、登山という言葉は使つてなかつたですね。だけどまた登山になったり。呼び名も学年もこれは結構、臨海教育と違っているなやり方で、経緯していました。

谷口…大山登山からスキーに変えるという時に、ちょうど私が関わっていたのですが、大山登山の時に一番大きな隘路になったのは、梅雨の端境期なんですよ。夏休みに入る直前で、梅雨が明けるか明けないかというすごいリスクがあつたんです。準備していたファイアーストームが出来ないというふうなことが半分ぐらいはあつて、せっかくの一番大事な行事が出来ないことがあつたんです。

若木…出来ない年がありましたね。中止になった年が。

尾室…登れない年も何回もあったと思



いますが、スキーならば必ず滑れると思われたのですか。

谷口…丁度、その直前だったんですが、僕が行った時に大雨が降りましてね。烏ヶ山と大山滝と大山登山という3コースに分かれていたんですが、鉄砲水が出るから道路閉鎖になるということで1つのコースが帰れなくなつて。もう途中でどうするかという緊急事態になりました。そこでいろいろ思案したんですが、やっとバスが着いて「東高に帰せ」「もう寝るところは教室でも何でもいい」「この水浸しの中で寝させることは出来ん」「テントは明日取りに来ればいい」と、何もかもほったらかして学校に帰したら、丁度時間もいい具合について、皆汽車で自分の自宅に帰ったんです。そういうことがあって、これは非常にリスクが高いスキーならその心配はないということ、切り替えたと思います。

尾室…実は私は若い時、先生方と違っ

て2年生の担任になったら憂鬱でした。今年は登山があると。下見でも登らなければならぬ。本番でも登らなければならぬ。何か春からトレーニングでもしないといけないよな。谷口先生が提案された時に、止めることはスムーズだったと聞いていますが、本当は得るものはすくなく多かつた気がするんですけども。

谷口…生徒にとって色々な準備の過程はすごく大事なことです。あれは教育なんです。そういう、ずっと積み重ねながら物をみんなで協同で作り上げていくという、東高の1つの教育の根幹みたいな。そういう意味では大事な行事だったと思うんですけど、ちよつとリスクが大きすぎるということがあつてね。

若木…呼び名も大山登山という年もあつたり、大山高原教育と言つた年もあつたりして、登山と高原教育とでは呼び名だけでなくて中身も変わってくるでしょ。ですから、やはり学年の方針というのでもあつたんでしょうね。場所は同じ大山でもね。

尾室…臨海教育、大山登山というのは多くの生徒の心に残っているものだと思います。また、東高祭や部活動の思い出もとても大きいと思います。濱田先生、それに関して何かありますでしょうか。

濱田…昭和29年に大学を卒業して、東高には47年の4月から勤めたのですけども、郷土研究部を続けてきました。自分の目で見て、頭で考えて、足で歩いて、地域の人と関わりを持って、地域の問題点なんかを聞いたり、自分なりにこうすればいいのではないかということを、ミーティ

ングなんかでも話をしたりね。それから、調査する間には、その子供たちを泊まつた公民館に集めて、宿題を見てやつたりして、非常に感謝されたような思い出がありますね。その当時の生徒から手紙が来たり、私が気高ですから、気高の卒業生も何人も入ってくれました。土曜、日曜は近い所に観察に行くんですけど、2泊3日の郷土研究部の合宿は非常によかつたと言ってくれる生徒がおりまして、新しい教育に欠けている面ではなかつただろうかなあという気がします。

谷口…対照的な2つの部活が、僕の記憶の中にあります。1つはバスケットボール部、もう1つはバレー部です。インターハイで入賞したバスケトボール部は、当時の宇田川先生が、県外の選手も含めて優秀な生徒を集めて、がんがんに鍛えていつて作り上げたチームでした。逆に、もう1つの男子バレー部。コーチがいなし、監督も指導はされなかつた。全部生徒でやつたんです。もうこれは見事でした。でも無敵でした。県内で2年間、敵がなかつた。自分たちで全日本のバレーを見ていてあ



れをやろうと云って、移動攻撃を取り入れようとする。あそこにバスが戻つたら止められないというね。その当時の指導者は鳥商と鳥工の塚田さんと石田さん。これは非常に指導力の優れた二大巨頭がたき上げていく。それに生徒自身だけで作り上げたチームが勝つたんですよ。2つの両極端。東高の在り方としては、自分たちで工夫して、創意工夫をして作り上げていく。あの状況は、刮目でした。こういう部活の姿があるんだなあ。

尾室…きつともものすごい想像力、創意工夫を重ねて、その目標に向かつて、頑張る力があつたんでしょ。まさに、そういう教育が色んなところから出て来たらいいですね。

3 東高教育の在り方

尾室…それでは、次の世代・次の100年に向けて、不易と流行の、不易の部分について、若木先生、何かご提言をいただけないでしょうか。

若木…ちよつと観点がずれるかも知れないけど、そのことを考えるについては、皆さん100年後に東高があると思つておられますか。一口に50年後、100年後と言ふけど。50年後はともかく、100年後なんて、人類だつて居ないかも知れませんよ。そういうことから考えていくべきですよ。これだけ科学技術が進歩だかんだ知らんけれども、どんどん、勝手に人工頭脳が入ってきたり、ロボットが入ってきたりですね。これは、100年と云ったら、どんな人類の社会になつていくのか分からない。3年制で高等学校でなんというようなことを、今の状態が続くと



いう前提がもうだめ。だから、そういう考え方はなくて、50年後でも今の学校制度がそのまま続くということではなくて、そういう時代の中で、ちゃんと生きていく力を高校時代にどうやって付けていくかということを考えて教育しなきゃいかんと、僕は思っていますよ。だから、結局そういうことになる、抽象的にならざるを得ないけれども。今後求めるものですね。それは、1つは、やっぱり深く考える力です。それとたくましさですね。今の東高の生徒。私が見てきた子供らについて言えばね。深く考えること、そういう中で生きていくんですから。たくましくなければ、いろんな意味でたくましいという。これを生徒に求めたい。変わって欲しくない点。東高として、自由であり明朗であるという。これはうちの学校は変わって欲しくないなあと思います。

令和2年度 会務報告

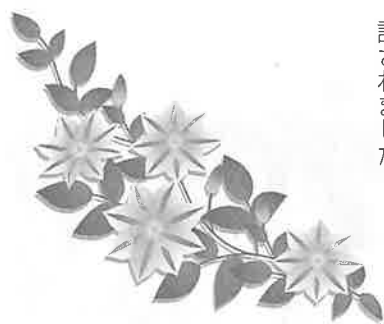
★六月、同窓会報『しのめ』第十六号を発刊しました。

★六月二十三日（火）創立九十八周年記念式典が挙行されました。

★コロナ禍により七月四日（土）東京東雲会総会中止、十一月十五日（日）東海東雲会総会中止、十一月二十一日（土）京阪神東雲会総会中止となり参加できませんでした。

★八月一日（土）本部同窓会総会のみを開催し、石丸新会長が就任しました。

★新役員は下記のとおりに承認されました。



鳥取東高校同窓会

（東雲会）役員表

〔任期：令和2年8月～令和4年7月〕

会長	石丸 文男	（山24）
副会長	清水 昭允	（山6）
〃	川口東洋輔	（山12）
〃	橋本 和憲	（山16）
〃	上杉 栄一	（山17）
〃	油谷 博文	（山24）
〃	米村 年博	（山24）
〃	清水 雄作	（山27）
〃	上山 弘子	（山28）
〃	森田 靖彦	（山30）
〃	清水 葉子	（山31）
〃	谷 英憲	（山41）
〃	木村 憲司	（山47）
監査	吉本 幾雄	（山21）
〃	井上江美子	（山22）
名誉顧問	八村 輝夫	（山7）
〃	常田 享詳	（山13）
顧問	中村 忠文	（山21）
〃	安住 庸雄	（山24）
〃	榎本 武利	（山21）
〃	廣谷 直樹	（山22）
〃	中島 規夫	（山27）
〃	島谷 龍司	（山29）
〃	常田 賢二	（山42）
顧問（校長）	中島 靖雄	特別会員
事務局次長	滝波 和宏	（山24）
事務局次長	上野 武彦	特別会員
事務局次長	村上 千春	（山39）

成績（一部）

優勝	松本 泰尚	（山脈12回）	ネットスコア	71.8
準優勝	谷口 博	（山脈20回）	〃	71.8
第3位	森本 茂	（山脈20回）	〃	71.8
第5位	橋本 和憲	（山脈16回）	〃	73.8
第8位 ベストグロス	山根 宏	（山脈17回）	グロス	75.0
第10位	古田 久憲	（山脈24回）	〃	75.8
第11位 エージ・シュート	安住 庸雄	（山脈24回）	〃	76.0
第15位	甲斐 摩樹	（山脈25回）	〃	77.6
第20位	加納 芳勝	（山脈27回）	〃	86.0
第21位 ブービー賞	円城寺正樹	（山脈19回）	〃	96.0

第8回 東雲会会長杯 ゴルフコンペ結果報告

橋本 和憲（山脈16）

令和2年10月10日（土）に鳥取カントリー倶楽部吉岡温泉コースに於て22名の参加で実施されました。

コロナ感染が春先から都市部を中心に拡大し各種のイベントが中止となりました。秋口には徐々に減少傾向となり県内では突発的に発生状況であり、万全の予防策を講じた上での実施となりました。

又この様な状況下で参加者は22名と例年に比べ大幅な減少となりました。

結果的には最高齢の安住庸雄会長がグロス88でエージシュートを達成され、又優勝は80歳間近な山脈12回の松本泰尚さんの優勝と高齢化社会を象徴する大会となりました。

尚大会後のミーティングでは母校創立100周年記念行事等への協力依頼が滝波同窓会事務局長様からあり、次回コンペ時のコロナ感染終焉を願うの閉会となりました。コンペ成績については左記の通りです。



同窓会報「しののめ」第16号の協力金納入の現況

同窓会員の皆様には、多大なご理解とご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。
第16号の協力金納入は次のとおりです。

★会員発送数	20,467冊
★協力金入金件数	1,221件 (前年比168件減)
★実質の協力金入金	2,493,257円 (協力金－振込手数料) (前年比360,668円減)
★必要経費(会報・封筒の印刷、郵送費等)	3,300,000円

★第11号、第12号で赤字が少しずつ減少傾向にありましたが、第13号で再び増加し約95万円の赤字となりました。それを受けて『コンビニ用の振込用紙』を導入しました結果、会員の皆様のご協力により第14号で約65万円の赤字、第15号で約45万円の赤字となり徐々に赤字幅が減少しました。今回再び赤字が約80万円となり増加しました。創立100周年を控え、会報の益々の充実のため、同窓会員の皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。

(注) 今回の会報「しののめ」には「会報協力金の振込用紙」を同封しておりません。これは「創立100周年の募金事業」との重複を避けるためです。同窓会員の皆様におかれましては、募金の趣旨をご理解の上、創立100周年事業が成功しますように、何卒ご協力の程よろしくお願いいたします。

令和3年度 同窓会(東雲会) 定期総会及び各支部総会の日程について

下記の日程で予定しておりますが、社会状況により延期・中止となる場合がございます。今後の詳しい状況・日程につきましては、鳥取東高または各支部のホームページ等でご確認ください。

鳥取東高等学校同窓会 東雲会総会ご案内

日 時	令和3年8月7日(土)
	役員会 14:30～
	総 会 15:00～
	懇親会 中 止
会 場	ホテルモナーク鳥取 鳥取市永楽温泉町403 TEL 0857-20-0101
会 費	なし

東海東雲会総会ご案内

日 時	令和3年11月13日(土)
会 場	未 定

京阪神東雲会総会ご案内

日 時	令和3年11月20日(土) (受付 12:00～)
	総 会 12:30～13:00
	懇親会 13:00～15:30
会 場	大阪キャッスルホテル 大阪市中央区天満橋京町1-1 TEL 06-6942-2401

covid-19の京阪神の推移を見守るために上記の会場を予約しますが8月初旬までには幹事会を開き実施が見送りを決定し、会費納入者には広報紙と共に開催か中止をお知らせします。あわせて、ホームページ<http://kshinonome.webcrow.jp/>にも掲示します。

東京東雲会総会ご案内

日 時	令和3年10月16日(土) 第1候補 秋の開催へ(現在調整中)です。
-----	---------------------------------------

主な大学の合格者数

北海道大学	1	奈良女子大学	1	高崎経済大学	1	京都産業大学	41
東北大学	1	鳥取大学	57	横浜国立大学	1	京都薬科大学	1
埼玉大学	2	島根大学	22	名古屋国立大学	1	同志社大学	1
電気通信大学	1	岡山大学	12	京都府立大学	1	立命館大学	10
東京外国語大学	1	広島大学	6	兵庫県立大学	1	龍谷大学	35
東京芸術大学	1	山口大学	3	公立鳥取環境大学	16	関西大学	9
金沢大学	1	愛媛大学	4	島根県立大学	12	近畿大学	39
大阪大学	3	高知大学	6	岡山県立大学	3	関西学院大学	4
大阪教育大学	2	九州大学	1	県立広島大学	2	甲南大学	6
神戸大学	2	長崎大学	2	下関市立大学	3	神戸薬科大学	1
兵庫教育大学	1	鹿児島大学	1	北九州市立大学	1	鳥取看護大学	5

令和3年度入試は、共通テスト初年度ということもあり、見通しが立ちにくい状況がありましたが、現役生、過半数ともに最後まで粘り強く受験に臨み、大変良好な成績を残してくれました。特に現役生は国公立大学に167名合格し、卒業生数に対し60%を超える合格率となりました。旧帝国大学では5名合格しました。看護系の専門学校や公務員警察・消防・職・市職等についても良き努力し、ほぼすべての生徒が目標としていたところに合格することができました。

なお、過去5年間の合格者(現役・過卒)の合計の状況及び主な大学の合格者数は表の通りです。

	H29	H30	H31	R02	R03
国公立大	132	144	155	172	205
私立大	251	319	344	328	349
短大	31	25	21	15	22
専修学校等	63	85	63	43	50
計	477	573	583	558	626

令和3年度の入試の状況

部活動報告

運動部

部名	大会名	種目・順位等	備考
柔道	鳥取県高等学校総合体育大会(代替大会)柔道競技の部	男子団体(準優勝)、男子90kg級(優勝)、男子100kg級(優勝)	
	鳥取県高等学校柔道新人戦	男子団体(準優勝)、男子73kg級(準優勝)、男子100kg級(準優勝)	
	全国高等学校柔道選手権大会鳥取県大会	男子団体(準優勝)、男子73kg級(準優勝)	
陸上競技	鳥取県高校総体(陸上競技選手権大会)	男子800m(優勝)、男子3段及び(第3位)	
	第55回鳥取県高等学校総合体育大会駅伝競走	男子(第5位)、女子(第6位)	
	男子第62回・女子第34回中国高等学校駅伝競走大会	男子・女子出場	中国大会
バスケットボール	ウインターカップ2020第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会鳥取県予選大会	女子(第3位)	
	鳥取県高等学校バスケットボール新人大会	女子(準優勝)	
	中国高等学校バスケットボール新人大会	女子出場	中国大会
バレーボール	鳥取県高等学校バレーボール大会	女子(第4位)	
	中国高等学校バレーボール大会	女子出場	中国大会
	第56回鳥取県高等学校ソフトテニス大会	女子(ベスト4)	
ソフトテニス	第46回鳥取県高等学校ソフトテニス大会	女子(第4位)	中国大会出場権
	第39回鳥取県高校インドア選手権	男子個人(第3位)	
	鳥取県高等学校テニス選手権夏季大会(県総体代替試合)	男子シングルス(第3位)、男子ダブルス(優勝)、女子シングルス(第3位)、女子ダブルス(第3位)	
テニス	鳥取県高等学校テニス新人戦	男子シングルス(第3位)、男子ダブルス(第3位)、女子シングルス(準優勝)	
	鳥取県高等学校テニス新人戦団体の部	女子(準優勝)	
	中国高校選抜テニス大会	女子出場	中国大会
ビームライフル	第55回鳥取県高等学校総合体育大会ライフル射撃競技会(代替大会)	チームライフル男子団体(優勝)、チームライフル男子立射60発、チームピストル男子立射60発(優勝)	
	第4回鳥取県高等学校ライフル射撃競技新人大会	エアライフル男子立射60発(優勝)、チームピストル男子立射60発(優勝)	
	第5回中国高等学校ライフル射撃競技新人大会	エアライフル男子立射60発(第4位)、チームライフル男子立射60発(第4位)、チームピストル男子立射60発(第6位)、エアライフル女子立射60発(第6位)	中国大会
サッカー	第40回全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会	チームライフル男子立射60発出場	全国大会
	第55回鳥取県高等学校総合体育大会サッカー競技(代替大会)	男子(準優勝)	
	第55回鳥取県高校サッカー新人大会	女子(第4位)	
弓道	鳥取県高等学校総合体育大会弓道競技の部(代替大会)	女子個人(第4位)	
	全国高等学校ボート選手権特別大会	男子舵手付きクオドルブル出場	全国大会
	湖山レガッタ兼鳥取県高等学校新人戦兼第32回全国高等学校選抜ボート大会鳥取県予選大会	男子舵手付きクオドルブル(第3位)、男子ダブルスカル(第3位)、女子ダブルスカル(準優勝)	
フェンシング	第32回全国高等学校選抜ボート大会中国地区予選大会	女子ダブルスカル(第4位)	中国大会
	鳥取県高等学校フェンシング新人戦	女子フルーレ(優勝)、女子エペ(優勝)	
	鳥取県選手権(フルーレ種目)	一般男子(優勝)、一般女子(準優勝)	
水泳	第70回鳥取県高等学校新人水泳競技大会	女子総合(第3位)、女子200m自由形(優勝)、200m個人メドレー(優勝)、男子50m自由形(準優勝)、女子100m自由形(準優勝)	
	第41回鳥取県室内選手権水泳競技会	女子200m個人メドレー(優勝)、女子50m自由形(優勝)、女子100m平泳ぎ(優勝)	

部名	大会名	種目・順位等	備考
自転車	鳥取県自転車競技選手権大会	男子スプリント(第3位)、男子1kmタイムトライアル(第3位)	
	2020JCSPAジュニアサイクルスポーツ大会全国大会	男子ケイリン 今井 純志(第5位入賞)	全国大会
	2020年全日本自転車競技選手権大会トラックレース(ジュニア)兼2021年JCFジュニア強化指定選手選考会	男子ケイリン出場	全国大会

文化部

部名	大会名	種目・順位等	備考
放送	鳥取県高等学校放送コンテスト鳥取県大会	朗読部門(優秀賞)	近畿高総文祭出場
	鳥取県高等学校総合文化祭鳥取県大会	VM(ビデオメッセージ)部門(奨励賞)	中国大会・近畿高総文祭出場
		アナウンス部門(特別賞)	全国高総文祭出場
将棋	第40回近畿高総文祭将棋部門鳥取県予選大会	朗読部門(奨励賞)	中国大会出場
		女子個人戦(優勝)	
	第14回全国高校生大作文書道展	団体奨励賞(全国で2校)	全国大会
書道	第21回席上揮毫大会	大作優秀賞(全国4位相当) 見生七菜	
	第52回鳥取県書道展	行書の部(最優秀賞)	
		(連盟賞)	近畿高総文祭出場
美術	第35回鳥取県高等学校総合文化祭美術・工芸展	朗読部門(奨励賞)	(学校奨励賞)
		金管8重奏(金賞)	
	第43回全日本アンサンブルコンテスト鳥取県大会		
短歌(全国大会)	令和2年度万葉の郷ととりけん全国高校生短歌大会	3位	しののめ三人娘
	放課後の光さしこむ教室にもういないのに君の音がする		田中綾音
	行くたびに感じる祖母の家の柱の印どんとん上へ		山本菜摘
短歌(全国大会)	自転車で行く坂道の向ひ菜も育っているよピンと背伸びす		市村恵奈
	バスに乗る時間がなくなるたびに回りの木々が大きく育つ		審査員特別賞(全国3位相当) 森本有咲

編集後記

古泉 真悟(山55)

「新型コロナウイルス」と聞かない日は無かった今年度。学校にも「新しい生活様式」がやってきました。マスク、手指消毒、こまめな換気、密を避ける。改めて「新しいコロナ」の時代に入ってしまったのだと感じる。

生徒は始業式・入学式の日からマスク着用。校歌を唱へてもできなかったまま1年をすごした。1年担任をさせてもらった私にとっては、1年たった今も、多くの生徒のマスクを外した顔はどこか見慣れない顔のままでした。

教員を始めたときに「生徒の顔を見て授業しなさい」と指導いただいた。マスクで表情が読み取れなくなってきたからこそ、今まで以上にマスクの下に隠れた表情を読みとり生徒のために頑張ろう。密を避けつつも、友人たちと精一杯学校生活を楽しもうと模索する生徒たちを見ながら強くそう思う。